

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業名	後期高齢者人間ドック・脳ドック助成事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	04	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	高齢者生きがい推進課			
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	横山 友二			

事務事業の目的・内容

事業目的	対象	75歳以上の高齢者及び65歳以上の障害認定者	意図	被保険者の費用負担の軽減、健康管理及び疾病の早期発見のため、人間ドック等の検査費用の助成を実施するもの。
事業内容	後期高齢者医療制度被保険者が指定医療機関において人間ドック及び脳ドックを受診する場合に、検査費用のうち人間ドック及び脳ドックは25,000円、人間ドックに頭部MRI・頭部MRAを追加して受診する場合は30,000円を助成する。			
事業開始から現在までの状況変化	後期高齢者医療制度が施行された平成20年度当初より実施している人間ドック費用の助成に加え、平成27年度より人間ドックのみでは発見の難しい脳血管に関する異常の早期発見を目的に新たに脳ドックの助成を開始した。			

事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		人間ドック利用助成請求額	12,428,640	8,275,000	10,800,000	円	
	人間ドック利用助成件数	411	331	432	件		助成件数
	脳ドック利用助成請求額		5,500,000	4,225,000	円		助成単価×件数
	脳ドック利用助成件数		220	169	件		助成件数
	人間ドック（MRI・MRA）利用助成請求		4,590,000	2,970,000	円		助成単価×件数
	人間ドック（MRI・MRA）利用助成件数		153	99	件		助成件数
指標で表すことができない定性的な成果	被保険者の健康の保持増進が図られ、医療費の適正化が期待できる。						目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成26年度	平成27年度	平成28年度	脳ドックの費用助成開始前と比較して、助成件数は増加している。当該助成制度は、本市の国民健康保険と同様のサービスであり、被保険者の費用負担軽減、健康増進の一助となっていることから、今後も継続して行うべき事業と考える。なお、千葉県後期高齢者医療広域連合の長寿・健康増進事業補助金交付対象となっている。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	14,729,560	22,971,181	19,706,729				
事業費(b)(円)	12,592,260	18,507,581	18,030,089				
うち一般財源	102,621	7,404,828	25,000				
職員給与費(c)(円)	2,137,300	4,463,600	1,676,640				
人役・職員(人)	0.23	0.52	0.21				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)	0.50	0.50	0.21				
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

事務事業の業務改善について

今年度(H28)の改善計画	将来的に健診データを蓄積することで被保険者の健康状況等の分析が行えるようにするため、平成28年度から国保連合会のシステムへの検査結果の入力を開始する。	取組の課題	人間ドック受診による疾病の早期発見・早期治療の重要性を継続して周知し、更なる利用の拡大を図る。
今年度(H28)に実施した取組	健康増進課と連携し、国保連合会のシステムへの検査結果の入力を行った。	今後の改善計画	広報紙、ホームページを活用するほか、健康診査の案内等を通じて制度の周知を図る。